

Ⅱ 各教科の正答率、誤答例及び所見

1 国語

(1) 正答率

| 問 題 | 配 点 | 正 答 | | 一部正答 | | 誤 答 | | 無 答 | | 通 過 率 率= $\frac{\text{得点計}}{\text{(人数} \times \text{配点)}} \times 100$ (%) | |
|-----|---------|-----|-------|------|-------|------|-------|------|-------|--|------|
| | | 数 | 率 (%) | 数 | 率 (%) | 数 | 率 (%) | 数 | 率 (%) | | |
| 1 | 問 1 | 4 | 442 | 92.1 | 0 | 0.0 | 38 | 7.9 | 0 | 0.0 | 92.1 |
| | 問 2 | 6 | 307 | 64.0 | 126 | 26.3 | 24 | 5.0 | 23 | 4.8 | 79.7 |
| | 問 3 | 4 | 214 | 44.6 | 1 | 0.2 | 254 | 52.9 | 11 | 2.3 | 44.7 |
| | 問 4 | 6 | 218 | 45.4 | 210 | 43.8 | 22 | 4.6 | 30 | 6.3 | 69.7 |
| | 問 5 | 5 | 449 | 93.5 | 0 | 0.0 | 29 | 6.0 | 2 | 0.4 | 93.5 |
| 2 | 問 1 (1) | 2 | 469 | 97.7 | 0 | 0.0 | 9 | 1.9 | 2 | 0.4 | 97.7 |
| | 問 1 (2) | 2 | 198 | 41.3 | 0 | 0.0 | 260 | 54.2 | 22 | 4.6 | 41.3 |
| | 問 1 (3) | 2 | 439 | 91.5 | 0 | 0.0 | 40 | 8.3 | 1 | 0.2 | 91.5 |
| | 問 1 (4) | 2 | 358 | 74.6 | 0 | 0.0 | 86 | 17.9 | 36 | 7.5 | 74.6 |
| | 問 1 (5) | 2 | 355 | 74.0 | 0 | 0.0 | 48 | 10.0 | 77 | 16.0 | 74.0 |
| | 問 2 | 3 | 353 | 73.5 | 11 | 2.3 | 102 | 21.3 | 14 | 2.9 | 74.7 |
| | 問 3 | 3 | 135 | 28.1 | 0 | 0.0 | 342 | 71.3 | 3 | 0.6 | 28.1 |
| | 問 4 | 3 | 373 | 77.7 | 0 | 0.0 | 106 | 22.1 | 1 | 0.2 | 77.7 |
| | 問 5 | 3 | 246 | 51.3 | 22 | 4.6 | 202 | 42.1 | 10 | 2.1 | 53.5 |
| 3 | 問 1 | 4 | 245 | 51.0 | 0 | 0.0 | 234 | 48.8 | 1 | 0.2 | 51.0 |
| | 問 2 | 4 | 198 | 41.3 | 0 | 0.0 | 279 | 58.1 | 3 | 0.6 | 41.3 |
| | 問 3 ア | 2 | 411 | 85.6 | 0 | 0.0 | 37 | 7.7 | 32 | 6.7 | 85.6 |
| | 問 3 イ | 2 | 379 | 79.0 | 0 | 0.0 | 71 | 14.8 | 30 | 6.3 | 79.0 |
| | 問 3 ウ | 2 | 212 | 44.2 | 0 | 0.0 | 224 | 46.7 | 44 | 9.2 | 44.2 |
| | 問 4 | 6 | 73 | 15.2 | 119 | 24.8 | 159 | 33.1 | 129 | 26.9 | 29.3 |
| | 問 5 | 5 | 261 | 54.4 | 0 | 0.0 | 209 | 43.5 | 10 | 2.1 | 54.4 |
| 4 | 問 1 | 3 | 323 | 67.3 | 0 | 0.0 | 151 | 31.5 | 6 | 1.3 | 67.3 |
| | 問 2 | 3 | 328 | 68.3 | 15 | 3.1 | 98 | 20.4 | 39 | 8.1 | 69.9 |
| | 問 3 | 3 | 392 | 81.7 | 4 | 0.8 | 74 | 15.4 | 10 | 2.1 | 82.2 |
| | 問 4 | 3 | 224 | 46.7 | 0 | 0.0 | 252 | 52.5 | 4 | 0.8 | 46.7 |
| 5 | 16 | 34 | 7.1 | 420 | 87.5 | 19 | 4.0 | 7 | 1.5 | 60.9 | |

(小数点第2位以下を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある)

(2) 各問題の誤答分析及び所見

今回の学力検査の平均点は、64.0点であった。標本の通過率は63.8%で、標準偏差は17.2であった。

- ① 文学的な文章を読む力をみようとされた問題である。大問全体の通過率は76.4%であり、昨年度と比較して8.5ポイント上がった。文章から読み取った内容を要約し、構成を工夫して表現することに課題がみられた。
 - 問 1 文章の展開に即して、内容を的確にとらえる力をみる問題で、通過率は92.1%であった。文脈における語句の意味に注意し、内容を的確に読み取らせる指導の継続が求められる。
 - 問 2 登場人物の心情を読み取り、適切に表現する力をみる問題で、通過率は79.7%であった。誤答としては、「百年杉を伐り倒すという仕事の大きさ」に触れていないものや、「体が」を重複させてしまうものが多かった。登場人物の心情を表す語句に注意させるとともに、文の成分の順序や照応に着目させる指導が必要である。
 - 問 3 描写に注意して、表現されている内容を的確にとらえる力をみる問題で、通過率は44.7%であった。正答を導くには、正彦の言葉から、「ツルのあつかい」によって「木の倒れる方向が決まる」ことを読み取り、その結果が描かれている文を見つける必要がある。誤答としては、「すさまじい音」「その間に、せ」など、百年杉が倒れた後の描写や、せいやんの動作そのものを答えるものが多かった。登場人物の言動の意味と情景描写との関わりについて考えさせる指導が必要である。
 - 問 4 登場人物の心情を的確にとらえ、条件に応じて適切に表現する力をみる問題で、通過率は69.7%であった。正答を導くには、庄蔵の言葉の要旨をとらえた上で、求められる解答として構成を工夫する必要がある。誤答としては、「循環することで山を成り立たせている」ことに触れていないものが多く、また「木は」という語句に照応しないものもあった。登場人物の言

動から内容を読み取らせるとともに、文の構成を意識させる指導が必要である。

問5 文章の表現に即して、内容を的確にとらえる力をみる問題で、通過率は93.5%であった。比喩表現の理解を含め、場面や登場人物の描写から内容を理解させる指導の継続が求められる。

2 基本的な漢字の読み書きを含む、基礎的な言語能力をみようとした問題である。大問全体の通過率は66.4%であり、昨年度と比較して6.7ポイント上がった。

問1 基本的な漢字の読み書きについての問題である。(2)の「管轄」については、「かんがい」と誤ったものが、全誤答の約7割を占めた。(4)の「評論」については、「標論」「表論」など漢字の音から考えたと思われる誤答が見られた。漢字の音訓、意味や用法など正しく理解し、文の中で漢字を正しく用いるための指導が必要である。

問2 文の組み立て(係り受け)についての理解を問う問題であり、通過率は74.7%であった。誤答としては、主語に対して受けるはずの「～から」「～ため」など原因・理由を表す語を用いず、文末を「～つけたい」「～つけること」とするものが多かった。平素から、文の成分の順序や照応を正しく理解し、文脈の中で正しく使用させる指導が必要である。

問3 動詞の活用形についての知識を問う問題であり、通過率は28.1%であった。動詞の活用形についての理解に課題がみられた。高等学校への橋渡しとして、基礎的な文法力は中学校のうちに身に付けさせたいものである。文法の用語の暗記だけでなく、日常の「読むこと」「書くこと」の指導の中で、繰り返し系統的に定着させることが重要である。

問4 熟語で用いられている漢字の意味の理解を問う問題であり、通過率は、77.7%であった。誤答として最も多かったのは、(7)「成長」であった。平素から、熟語を構成する漢字の意味や用法など正しく理解し、語感を磨くための指導が必要である。

問5 基本的な語彙力を問う問題であり、通過率は53.5%であった。[I]の誤答のうち、適切でない語句を入れたものが5割近くあり、「千理」「千利」など、漢字で正しく書けないものが多かった。ことわざや慣用句、故事成語に関する知識を広げ、語彙を豊かにすることが重要である。「短文作り」を継続して行うなど、語彙とその意味を正しく理解した上で活用できるようにする指導が必要である。

3 「もの」と「こと」の関係を通して言葉について考えさせる文章を読み、説明的な文章を理解する力をみようとした問題である。大問全体の通過率は49.4%であり、昨年度と比較して3.6ポイント下がった。

問1 具体的な表現が言い表すことについて、筆者の考えを読み取る問題であり、通過率は51.0%であった。文章の展開に即して、その意味を正しくとらえる力を養う指導が必要である。

問2 言葉と「こと」の間に積極的な関係が存在すると筆者が考える理由を考えさせる問題であり、通過率は41.3%であった。問題の意図を正しく理解し、叙述に即して丁寧に読み解く力をつけさせる指導が必要である。

問3 言葉と「ふくらみ」について「日常の生活のなか」、「美的な経験の現場」で対比しながらその関係性を考える問題であり、通過率はア85.6%、イ79.0%、ウ44.2%であった。用いられる語の関係性について、文章の中で正確にとらえる力をつけさせる指導が必要である。

問4 抽象的な表現を、条件にあわせて具体的に説明し直す問題であり、通過率は29.3%であった。誤答としては、問題の内容をとらえきれず、前後の文の抜き出しにとどまるものが多かった。また、具体性に乏しく、不十分な説明で終わってしまうものや、文末表現が不適切であるもの等がみられた。普段から、抽象的な概念をあらわす言葉にも注意し、具体的なイメージを描きながら読むことを心掛けさせたい。また、根拠をおさえ適切に表現する力を磨くことも必要である。

問5 文章に書かれている内容をとらえる力をみる問題であり、通過率は54.4%であった。文章の構成や論理の展開にそって丁寧に読んでいく力をつけさせる指導が必要である。

4 古典を理解する基本的な力をみようとした問題である。大問全体の通過率は66.5%で、昨年度と比較して12.3ポイント下がった。

問1 基本的な読み取りの力をみる問題であり、通過率は67.3%であった。誤答としては、歌を詠ませた人物と、実際に歌を詠んだ人物の関係を正しくとらえられていないものが多かった。文章中の登場人物の描写に注意し、丁寧に読んでいく力をつけさせる指導が必要である。

問2 文章に書かれている内容を、叙述に即して正しく読み取る力をみる問題であり、通過率は69.9%であった。誤答としては、文脈から内容を正しく読み取れなかったことによるものが5割以上を占めていた。文章の展開に即し、場面を確認しながら読んでいく力をつけさせる指導が必要である。

問3 歴史的仮名遣いについての理解をみる問題であり、通過率は82.2%であった。歴史的仮名遣いについての理解度の高まりがうかがえる。古文を音読し、古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れさせる指導の継続が求められる。

問4 文章の展開を確かめながら、内容を理解する力をみる問題であり、通過率は46.7%であった。

誤答としては、(イ)を選んだものが7割以上であった。文章の展開を確かめながら読むことに加え、複数の作品に触れることで、古典に表れたものの見方や考え方に気付かせる指導が必要である。

- ⑤ 資料をもとにして、自分の考え方をまとめ、目的や意図に応じて適切に文章を書く力をみようとした問題である。大問全体の通過率は60.9%であり、昨年度と比較して5.1ポイント下がった。資料は埼玉県が作成した「平成23年度『埼玉青少年の意識と行動調査』報告書」である。

資料を材料として「働くこと」への自分の考えを、職場体験や身近な人から聞いた話などに関連させて書くことは概ねできていた。一方で、文の主語と述語の関係や係り受けが不適切なもの、話し言葉と書き言葉が適切に使い分けられていないもの、常体と敬体が統一されていないもの、原稿用紙の使い方が不適切なものなどが多かった。また、段落や文章の構成の工夫ができず、文章としてのまとまりを欠くものも多かった。自分の考えを持ち、深め、明確に伝えるためには、推敲や読み合いなどの交流によって、文の組み立てや文章の構成を日常的に意識させる必要がある。

トピック

～内容を的確に伝えるためには～



| 問題 | 記述する内容 | 通過率 |
|------|------------------|-------|
| 1 問2 | 喜樹が息をのんだときの心情 | 79.7% |
| 1 問4 | 庄蔵が喜樹の言葉を打ち消した理由 | 69.7% |
| 3 問4 | 松尾芭蕉の句を使った内容の説明 | 29.3% |
| 4 問2 | 伊予の人たちが祈った内容 | 69.9% |
| 5 | 「働くこと」についての考え | 60.9% |

左の表は、記述によって解答する問題とその通過率を示したものである。これら記述による問題の通過率は年々上がっており、小・中学校での「書くこと」の指導が定着し、受検生が意欲的に問題に取り組むようになってきた

ことがうかがえる。

その一方で、標本の誤答には、指定された文脈に合わないもの、文がねじれてつながっていないものが多かった。文章から読み取った内容を的確に要約し、文の構成を整えて書くことに課題がみられた。

文の構成を整えて、伝えたい内容を的確に要約するためには、まず、主語と述語の関係に着目することが重要である。日常の会話やメールなどでは、相手との関係が近いため、「誰が」（主語）を省略しても伝えたい内容が伝わりやすいことが多い。しかし、文や文章として書く場合には、主語と述語の関係を明示し、その関係の回数によって、文の種類（単文・重文・複文）を適切に使い分ける必要がある。また、常に文や文章を読む側の立場に立って、客観的な記述を心がけるようにしたい。

〈指導改善のポイント〉



日本語の表現には、「象は鼻が長い」に代表される二重主格構文や「僕はウナギだ」にみられる名詞述語文などもあり、主語と述語の関係を一概に生徒に説明することは難しい。しかし、日常の学習の中で、主語と述語の関係を意識させることは、思考力・判断力・表現力を高める上で重要である。例えば、スピーチ原稿の作成や短文作成において、主語を明確にし述語との関係が適切になるように指導することや、古文の読解において、登場人物の中から主語を確認させる指導に取り組むことも効果的である。また、文や文の成分についての理解や、主語や述語になる品詞（体言・用言）についての理解を定着させること、「読むこと」の指導を通して語感を磨き、語彙を豊かにすることも、表現力を高める上で不可欠である。